

炭と暮らす

明治から昭和の戦後にかけてエネルギー源の一役を担ってきた「木炭」。岩手県は木炭王国と呼ばれ、市内でも炭焼きを仕事とする人々がいました。石油・電気・ガスの普及により姿を消した炭ですが、今また注目が集まっています。自然から作られた炭のぬくもりを感じてみませんか。

憩いの森

男山のふもとにある憩いの森は、展勝地生活環境保全林区域。敷地内の炭焼き窯では、一年を通して木炭が生産されています。ナラを原材料とした炭は良質で、燃料だけでなく床下の湿気予防として、あくは畑の肥料として利用されています。管理人の昆野智雄さんは「炭だけでなく桜のまきやキノコも人気」と来場を呼び掛けています。

◎憩いの森管理事務所

☎6417447(月曜日休館)



▲缶を使ってミニ炭焼きを体験する照岡小5年の児童たち
◀年に2回実施する炭焼き体験会では窯に入り木を並べる



▶自然に囲まれた憩いの森の炭焼き小屋
▼岩手県産のナラで作った良質の木炭のほか木酢液、あくを作っている



七輪でクリを煮る国見木炭生産会の新田代表。長時間火を使うとき、炭ならガスの節約になり使い勝手がいいそうだ



テーブル付きのオカロで暖をとる間形さん(右)と妻の節子さん。鉄瓶で沸かしたお湯でお茶を飲むのがこの季節の日課。炭に灰をかけておけば一晩たっても火種が残り、翌朝すぐに温かくなる



炭が米と並ぶ生活必需品だったころ、七輪^{しちりん}、火鉢、炭こたつほどの家庭でも見られました。今では珍しい道具ですが、生活に取り入れている人がいます。電気こたつを使わずオカロ(火鉢)を愛用する間形進さん(上野町)は、10年ほど前から使用。「自然の温かみがあつていい」と冬の間楽しんでいきます。



作る

いわさき炭生産組合

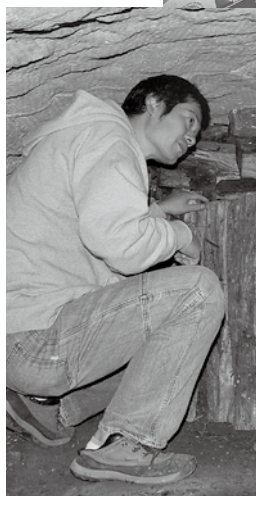
▶土と石やれんがで
窯口をふさいでいく
▼柳でできた炭は柔
らかく燃えやすい



伐採した木を利用した炭
作りが住民の手で行われ、
地域の活力となっています。

平成20年に旧岩崎新田小学校跡地に
建てられた炭焼き場は、いわさき炭生
産組合(高橋初夫会長)が管理。地域の
環境整備の伐採木を活用しています。
稲瀬町では国見木炭生産会(新田健
三代表)を三年前に発足。仲間5人が
集まり、農閑期に炭を焼いています。

◎いわさき炭生産組合
☎65-2441(岩崎地区交流セ
ンター)
◎国見木炭生産会
☎64-7848(新田)



会員のほとんどが子どものころから炭焼きを手伝ってきたそうで、
火の加減や取り出すタイミングは勤が頼り。炭はたたくとカラ
ンカランと軽やかな音が鳴る。クルミや柳で作られた炭は火つきが
よくバーベキュー向きで、地元のイベントなどにも使われている

国見木炭生産会

炭焼きが日常で行われていた当時の経
験者から指導を受けて建てた炭焼き場



▶市内の桜の木で作った
オリジナルの器を用いた
作品。炭は岩手県産。北
上の物産としても人気。
手のひらサイズから木の
根元をまるごと使った作
品まで取りそろえている
▼制作に取りかかる工房
スタッフの木戸口美歌子
さん(右)と奈津美さん



炭の詩工房 ぐりーんぐれーす

炭をインテリアとして提案している
のが、ぐりーんぐれーす(木戸口美代
子代表)の「炭の詩」です。

間伐材を利用し、アートという視点
から選び抜いた木を、自然の形そのま
まに炭化。花やフクロウなどの小物で
彩られたオブジェは見た目美しく、
空気の浄化といった炭の効果も得られ
ます。「一つ一つ心を込めて作って
います。炭の持つパワーを体感してい
ただければ」と木戸口代表。燃料だけ
ではない炭の力と美しさを発信してい
ます。

◎ぐりーんぐれーす
二子町築館38-1
(株)木戸口工務店内
☎66-2722 FAX 66-5310
<http://www.suminouta.net/>

生かす